平成16年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2005.3

小矢部市教育委員会
例 言

1 本書は、小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要である。

2 調査は、小矢部市教育委員会が実施し、担当は次のとおりである。

調査事務 高木場万里（文化課主任） 中井 眞央（同主事）
現地調査 高木山遺跡 大野 淳也（文化課主事）
稲葉山牧場B遺跡ほか 高木場万里

3 調査の参加者は次のとおりである。

現地調査・実測等 上田寿美子 田畑 郁子 石黒 淑元
整理作業等 赤野 和恵 西田 芳江

4 現地調査及び土地洗浄の作業員は、(社)小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。

5 遺物写真の撮影は、アーガス・フォト・スタジオに委託した。

6 本書の編集は高木場が担当した。執筆は高木山遺跡を大野が、その他は高木場が担当した。

7 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目 次

例言・目次
事業の概要 ................................................................. 1
市内遺跡発掘調査等事業一覧 ......................................... 2
市内遺跡発掘調査等事業位置図 ....................................... 3
高木山遺跡 ............................................................... 4
稲葉山牧場B遺跡 ....................................................... 6
桜町遺跡（1） .......................................................... 8
京町南遺跡 .............................................................. 10
戸久遺跡 ................................................................. 18
桜町遺跡（2） .......................................................... 20
日の宮・道枝寺遺跡 .................................................... 22
報告書抄録
事業の概要

2004（H16）年度に小欠郡市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査は7件である。このほかに立会調査2件、現地確認2件があった。試掘調査のうち1件は、試掘調査の結果から原因者負担により本調査を実施した。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域外申請にともなう問い合わせ等が数件ある。

調査を実施した事業者には、個人の住宅建設に伴うもの、共同住宅建設に伴うもの、店舗駐車場造成に伴うもの、宅地造成に伴うもの、公民館建設に伴うもの、風力発電設備建設に伴うもの、老人ホーム建築に伴うものなどさまざまなである。また、原因となった事業者別に見た場合、個人2件、民間3件、法人等団体2件である。

近年の傾向としては、大規模開発、公共事業などに伴う調査は減ってきている。個人・民間による小规模な開発に伴う調査が増加している。また、調査の原因も多岐にわたりている。

調査は、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を含めて実施した。調査の結果から、本調査を実施した特別養護老人ホーム増築に伴う豊木山遺跡の本調査については、調査費を原因者負担としているため、事業の対象から除外している。本書では、試掘調査の対象とした7件について、その概要を記した。その他の立会調査、現地確認については以下に簡単に記す。

立会調査は、若宮古墳前方部の断面にかかっていた墓地の移転に伴うものである。墳丘土上を確認したが、遺物の出土はなかった。もう一件は、蟹倉条里遺跡における倉敷川の河川改良事業に伴うものである。河川改良という開発の性格上調査が困難な部分もあり、また、周辺の調査の結果から、発掘調査により削平されている可能性が高く、立会調査とした。工事は2010（H22）年度までの予定であるが、現在のところ遺構・遺物の確認はない。

現地確認したものは、田川条里遺跡内における車庫の建設に伴うものが1件。2000（H12）年度から行なわれている岩国市中世城壁遺跡調査に伴う源氏ヶ峠城跡の現地確認が1件である。田川条里遺跡は、開発面積が小さく、また、すでに発掘調査が実施されているうえに、さらに発見が進んでいるため、遺跡に影響はないと判断し、現地確認にとどめ、慎重に事とした。源氏ヶ峠城跡は、縦張り図の作成に伴う現地確認で、市町及び区町などを実施した。
<table>
<thead>
<tr>
<th>No</th>
<th>遺跡名</th>
<th>所在地</th>
<th>調査対象面積（掘削面積）</th>
<th>調査種別</th>
<th>現地調査等日時</th>
<th>調査結果</th>
<th>調査原因</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>高木山遺跡</td>
<td>浅地津土寺 116-1 ほか</td>
<td>3,000㎡ (101㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.4.26 / 4.30</td>
<td>構確認等、古文書、骨灰石器、石器出土。</td>
<td>特別養護老人ホーム増築</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>釧路山牛場B遺跡</td>
<td>旧川崎宿 162-4 ほか</td>
<td>341.94㎡ (30㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.5.7 / 5.12</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>風力発電設備建設</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>桜町遺跡(1)</td>
<td>桜町学園田 1312-2 ほか</td>
<td>693㎡ (73㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.6.7 / 6.10</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>宅地造成</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>坑土遺跡</td>
<td>坑土 280-1 ほか</td>
<td>1,433㎡ (284㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.9.3 / 10.7</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>アパート建設</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>戸久遺跡</td>
<td>安養寺 1747-1</td>
<td>400㎡ (32㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.10.19 / 10.26</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>住宅用地建替</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>桜町遺跡(2)</td>
<td>桜町学園田 1401 ほか</td>
<td>1,669㎡ (80㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.11.9 / 12.6</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>建物改築工事造成</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>一日宮・蓮林寺遺跡</td>
<td>蓮林寺 139</td>
<td>630㎡ (4㎡)</td>
<td>試掘調査</td>
<td>16.12.6</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>自治公民館建築</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>若宮古墳</td>
<td>坑土 末戸</td>
<td>5㎡</td>
<td>立会調査</td>
<td>16.7.8</td>
<td>墳丘、遺物出土せず。</td>
<td>古墳移転</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>蟹谷草里遺跡</td>
<td>安養寺 2037 ほか</td>
<td>7,600㎡</td>
<td>立会調査</td>
<td></td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>河川改修</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>田川草里遺跡</td>
<td>田川 7080-2</td>
<td>120㎡</td>
<td>現地確認</td>
<td>16.6.9</td>
<td>遺構確認されず、遺物出土せず。</td>
<td>障害者住宅建設</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>植氏ヶ崎城跡</td>
<td>道村寺前 植氏ヶ崎 ほか</td>
<td>9,000㎡</td>
<td>現地確認</td>
<td>16.6.28 / 11.18</td>
<td>城、土塁、土塀、城壁、虎口、土橋、柵台。</td>
<td>世界遺産関連施設整備</td>
</tr>
</tbody>
</table>
高木山遺跡では、平成7・8年度に特別養護老人ホーム「ほっとはうす千羽」の建設に先立ち発掘調査を行い、縄文時代中期の遺構・遺物を検出している。今回、遺跡範囲に含まれる同施設敷接地においてその増築が計画されたため、事業化に先立ちその予定地内の埋蔵文化財の現状を調査した。

調査は増築予定地3,000㎡を対象に、幅1㎡のトレーシング5箇所を重ね埋めにより掘削、人力により精査した。掘削面積は合計101㎡である。

調査地は南北に高い部分があり、中央部が東へ向けて開口する浅い谷状の地形となっている。調査の結果でも、その地形が縄文時代から続く旧地形であることが確認された。基本土層は3層：暗黒褐色土（表土）、II層：黒褐色土（遺物包含層）、III層：暗褐色粘質土（谷部理土）、IV層：黄褐色粘質土（地山）である。

遺構・遺物

遺構は、T1で幅40cmの溝の一部を1条、T3とT5で径25〜30cmの穴をそれぞれ1基と2基検出した。またその他に、T2で炭化物や焼土の分布を3ヶ所、T5で倒木痕とみられるドーナツ状の溝の一部を確認した。遺物は、T2で磨製石斧1点と縄文土器片を、T5で縄文土器片と石器を少量検出した。

北側の高所や中央部の低地では若干の遺構や遺物が確認されたが、その分布状況は不明であった。ただし、谷状の地形を含むことからも縄文時代の捨て場が存在する可能性が考えられる。南側の高所でもほぼ同様の事態であったが、今回の調査区内では最も高かった場所であり、穴等が検出されたことから、他に住居跡等の遺構が周辺に分布している可能性がある。

以上の結果から、当初の建設計画予定地から南側の高所部を除外するよう要請し、再設定する計画地についても本調査を行うよう協議した。 (大野)
図2 調査区設定
位置図
(1:1,000)

T1（南西から） T1溝検出状況
T3（北から） T3 溝検出状況
T5（西から） T5 溝検出状況
稲葉山牧場B遺跡

図3 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

稲葉山牧場B遺跡は、小矢部市の北方、稲葉山の山頂北側、標高330 m付近に位置する。1990（H2）年度の調査で、平安時代の遺構が確認されている。今回調査は風力発電設備の建設に伴うもので、周辺の塩蔵文化財区域拡張の範囲外であるが、90年度の調査区の近隣地であることから、試掘調査を実施した。

風力発電設備は3ヶ所計画されている。このうち3号機は遺跡の範囲から遠く離れているため、先に1号機、2号機の調査をし、その結果により3号機の調査を検討することとした。

現地調査は2004（H16）年5月7日から12日まで実施した。1号機、2号機の建設予定地内にそれぞれ1.5 m×10 mのトレインを1本づつ設置し、人力により

図4 トレイン位置（1:1,000）
図5 1断面

掲載した。最終的な掘削深は、1号機予定地で20 cm〜50 cm、2号機予定地で30 cm〜50 cmである。

1号機予定地は、東西に設置したトレンチの西と東で標高差2.6 mをはかる傾斜で、一部は横の植樹がなされている。20 cm〜30 cmの厚さで堆積する表土下は、すぐ明褐色シルトの地山層が確認できる。トレンチ中央から東側にかけて70 cmの段差が確認されたが、これは比較的新しい時期に人工的に掘削されたものと考えられる。

2号機予定地は、牧草地帯で、牧草地として造成する際に削平されており、薄い表土（牧草）の下にはすぐ地山層が堆積する。

1号機、2号機予定地ともに、遺物・遺構は確認できなかった。 （高木場）
桜町遺跡は市街地の北にあり、子撫川右岸の標高25m前後の段丘上から丘陵裾部にかけて広がる。1980年(S55)から、遺跡を東西に横切るように国道8号小矢部バイパス建設に伴う調査が実施され、縄文時代から江戸時代に至るまでの遺構、遺物が確認されている。なかでも遺跡の西端にある谷からは、縄文時代の建築跡材などが集中して見つかっている。それ以外にも県道、住宅等の建設に伴うものなど、これまでに50件以上の調査が行われている。

今回の調査は、宅地造成に伴う試掘調査であり、調査地は遺跡中央に位置する。調査区に隣接する南側では、1993(H15)年公民館建設に先立ち試掘調査が実施され、縄文土器、石刀などが出土している。

現地調査は2004(H16)年6月7日から10日まで実施した。調査対象内に1.5m×25mの試掘トレンチを東西方向に2本(T1・T2)設置した。掘削機
図8 T2断面

T1では、表土を除去した段階で、トレンチ西側を暗渠排水路が東西に通っていることを確認したので、これを避けるため、トレンチを南北に分割し、暗渠排水路がない北側のみの調査とした。遺構及び遺物ともに確認できなかった。

T2についても、表土を除去した段階で、まずトレンチ北半分を調査し、その結果、遺構及び遺物ともに確認できなかったので、北半分のみの調査で終了とした。

基本層位はT1・T2ともI表土(耕作土)、II暗オリーブ褐色シルト、III黑色ロームであるが、T2のトレンチ西側では、II層にかかって、広い範囲に砂の堆積がみられた。

(高木場)
図9 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

埴生南遺跡は、湊江川左岸の標高37m前後の段丘上に立地する。埴生地区は、市内でも特に遺跡の密集しているところとして知られている。昭和50年代に園場整備が実施され、水田地帯であったが、近年市街地化がすすんでいる。

1993（H 5）年個人住宅の建設に伴い実施された調査で、弥生中期の遺物包含が確認されている。今回の調査区は、共同住宅の建設に伴うもので、93年の調
査区を北と西から囲むように築造する。当初査生条果遺跡として査定を実施していたが、査定の結果、査生南遺跡の範囲を広げることになったものである。

現地査定は2004（H16）年9月3日から10月7日まで実施した。査定対象地に1m×10mの試掘トレンチ4本（T2・T3・T5・T6）、1m×8mのトレンチ2本（T1・T4）を設定した。表土を除去した段階で、T2で表土（旧耕作土）下に多量の土器を含む灰色シルト層（遺物包含層）を確認した。T1・T3・T4・T6においても各トレンチ南側で包含層が確認されたため、査定範囲を面的に広げ、西から1区、2区、3区、4区とした。家屋西側の査定対象区でも包含層が広がっていると考えられたが、1.5m以上の盛土造造がされており、面的に広げる事は困難であり、1.2m×26mのトレンチを入れ5区とした。

掘削機により表土を除去した後、人手により検査し、遺構・遺物の確認をした。包含層は、細かな土器（玉類など）の出土が予想されたので、土のう袋に詰めて持ち帰り、土壌試験することとした。

層位
基本層位は、1表土（旧耕作土または盛士）、II層構築による損乱土、III暗褐色シルト（古墳時代遺物含む）、IV灰黄褐色砂質ローム、V黑色シルト（弥生中期遺物包含層）、VIに豊谷黃褐色シルトまたは、黑褐色シルト、VII灰黄褐色シルト、VIII褐色砂質土である。1区から4区では、表土下すであるいは薬い損乱土の下にV層が広がる。III層は5区以外では確認できない。
図12 遺構概略図（1:250）
遺構
確認された遺構は溝 3 本（SD-01・02・03）、土壌 4 基（SK-01・02・04・05）、穴（P-01〜06）を含む。
SD-01 は裏土を除去した段階で確認できる。遺物の出土はないので時期は確定できないが、V 層（弥生中層の遺物を含む包含層）を切り込んでおり。SD-02・03 はともに遺物の出土はなく、時期は不明である。
SK-01 は直径 1.4 m、深さ 0.2 m の円形。弥生土器（壺）が 1 個体分出土した。
SK-02 は直径 2.3 m、深さ 0.4 m。不整形な楕円形をしており、全体から弥生土器片が多数出土した。
SK-04 は直径 1.2 m、深さ 0.5 m の円形。弥生土器片、管玉未製品が出土した。
SK-05 は直径 1 m、広径 0.8 m、深さ 0.1 m の楕円形。土器小片、石、木片等が出土した。
P-01 は直径 0.8 m、深さ 0.1 m の円形。弥生土器（壺）が出土した。
P-02 は直径 0.8 m で 0.25 m の円形。少量の土器片が出土している。
P-03〜06 は直径 0.3 m〜0.5 m の円形。少量の土器片が出土している。
1 区から 4 区の北側では、毎回の改修を確認した。河川改修等により埋め立てたが、中に須恵器、片敷が混入している。3 区と 4 区の間でも毎回の改修を確認した。

遺物
出土した遺物は弥生土器が最も多く、その中には土製品、石製品、土壌器、須恵器、片敷がある。

弥生土器（写真 1〜10, 22〜50）壺、壷、鉢などがある。ほとんどが包含層からの出土であるが、4、27、34、46 が SK-02 から、33、38 が SK-04 から、31 が SK-05 から、25 が P-02 から出土した。1、2、3 は土壌器 2 から、3、8、10 は土壌器 3 から出土した。6、7 は同一塊体である。46 はやや破損した突起状の模様、44、48、49 は穿孔、50 は傾斜痕がある。

土製品（写真 51〜55）51 は洗鉢、直径 3.5 cm、弾などの体部を転用したものである。52 は土壌、直径 1.5 cm、SK-04 から出土した。54 は銅鐡形土製品、高さ 4 cm、幅 3.5 cm の破片が 2 点出土している。同一塊体ではない可能性もあるが、錠と呼ばれる張り出しと、口と呼ばれる穴が表現されている。55 は陶器に似た土製品、高さ 6.5 cm、幅 4 cm の卵形を呈する。側面に指孔に似た穴の痕跡がみられる。

石製品（写真 11〜21）11、12 は扁平片片刃石斧である。13 は打製石器、14 は磨製石器である。ともに土壌器 2 から出土した。15 は石錐（鈍錐）と思われる。
土壌器 2 からの出土である。17 は管玉未製品（緑色凝灰岩）である。SK-04 からの出土である。18 は緑色凝灰岩、18、19 は鉄石英、20 は片敷である。このほ
かにも緑色凝灰岩、鉄石英、瑪瑙などが出土している。

土師器 高平（脚部）や、小型竪などがⅢ層から出土している。

須恵器 華洲 旧梓作土からの出土のほか、旧河戸を埋め立てた埋土の中から比較的多く出土している。摩滅しており、別の場所から埋土とともに掘入されたものであるだろう。

以上の出土品から、弥生時代中期にこの地域で農耕やそれにともなう祭祀が行われていた可能性があること、また、玉作りが行われていたことなどがうかがわれる。（高木場）
戸久遺跡

戸久遺跡は、弥生終末期～中世の遺跡として知られている。本来は、市南部を限る蟹谷丘陵部から平野にかけて広がっていたものと思われるが、現在一帯は囲場整備が実施されており、丘陵山麓から平野部に向かって階段状の水田地帯となっている。遺跡が立地するあたりの現在の標高は45m前後をはかり、すぐ北側を国道359号が通っている。調査は、個人住宅の建設に伴うものであり、遺跡範囲の北東端に位置する。また、この地域は、中世の条里地割が残るとされる蟹谷条里遺跡の範囲でもある。

現地調査は、2004年（116）10月19日から27日まで実施した。調査対象地内に1m×8mの試掘トレンチを4本（T1～T4）東西方向に設定し、人力で掘削した。層位ごとに掘削、精査を繰り返し、遺構及び遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は30mである。

いずれのトレンチも現耕作土の下は円場整備による擾乱上層が堆積し、その下層はT1・T3では砂礫層が、T2・T4では粘質上層が堆積する。基本層位はT1・T3ではⅠ耕作土、Ⅱ圍場整
備による層乱上層、IIIオリーブ褐色シルト、IV灰オリーブ砂礫である。T2・T4ではI耕作土、II暗オリーブ褐色シルト、IIIオリーブ褐色シルト質ローム、IV黄褐色粘質ロームである。

遺構及び遺物は確認できなかった。
桜町遺跡（2）

桜町遺跡は、小矢部市街地の北方、子撫川の右岸に位置し、標高25mあたりの段丘上から丘陵樹部にかけて広がる。1980（S 55）年から国道8号小矢部バイパス建設に伴う調査をはじめとし、50件近い調査が実施されている。その結果、縄文時代から江戸時代に至るまでの長期間にわたり営まれた遺跡であることが確認されている。今回の調査区は、店舗建設及び駐車場造成に伴うもので、遺跡の北部中央にあたる。西側の隣接地では1993（H 5）年の調査により、奈良時代の道路跡が確認されている。また、北側は国道8号小矢部バイパスが通っており、建設に先立つ調査では奈良時代の鋼力柱建物が確認されている。

現地調査は2004年（H16）11月9日～12月6日まで実施した。調査対象地内に1m×8mの試掘トレンチを東西方向に10本設定した。掘削機で耕作士等を除
去した後、人力により層位ごとに掘削、精査を繰り返し、遺構及び遺物の有無を確認した。最終的な掘削深度は0.5m～0.7m、下層を確認するための深掘部分で1.2mである。

基本層位は、I 耕作土、II 暗オリーブ褐色粘質土、III黄褐色粘質土、IV黄灰色(4/1)粘土(やや砂質)、V黒色粘土である。T 3 ～ T 5 ではIII層とIV層の間に黄灰色(5/1)粘土(やや砂質)が堆積し、T 4 ではこの層から炭化物がかたまって検出され、遺物も確認できた。

遺構は、T 5 で穴1基を確認した。直径20cm、深さ16cm。遺物の出土はない。

遺物は、II層から中世～近世にいたる遺物が出土し、III層と黄灰色粘土(5/1)からは少量の土師器が出土したが、小片のため時期の特定にはいらない。

(真木場)
調査の概要

道林寺遺跡は茨城県白子の段丘上に位置する。1974（昭和49年）から1975（昭和51年）年にかけて県場整備事業に伴う調査が行われ、古代時代から古墳、奈良、平安、中世を中心とする遺跡であることが知られている。当初は蓮沼遺跡、日の宮遺跡、蓮沼遺跡、長高尾古墳古墳群、極掛遺跡、道林寺I遺跡、道林寺III遺跡、道林寺IV遺跡と呼ばれていた7遺跡を、1985年（昭和60年）に弓部市遺跡地図全帳を整備した際に、まとめて日の宮・道林寺遺跡としたものである。調査は、公民館の建替えに伴うもので、遺跡の中央部にあたる。

現地調査は、2004（平成16年）12月10日に実施した。現在も公民館のグラウンドとして使用されていることから、敷地北東の一隅に1m×4mの試掘トレンチを設け、層位を確認することにした。重機により現地表下1.5mまで掘削し、堆積する土層が後世（県場整備時あるいはその後）の盛土であることを確認した。

（真木場）
<table>
<thead>
<tr>
<th>所在地</th>
<th>報告書抄録</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ふりがな</td>
<td>ぺいせいじゅうろくねんどおやべしまいそうふんかさいはぐつちょうさがいほう</td>
</tr>
<tr>
<td>書名</td>
<td>平成16年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告</td>
</tr>
<tr>
<td>シリーズ名・番号</td>
<td>小矢部市埋蔵文化財調査報告書第56冊</td>
</tr>
<tr>
<td>著者名</td>
<td>大町淳也、高木場万里</td>
</tr>
<tr>
<td>編集機関</td>
<td>小矢部市教育委員会</td>
</tr>
<tr>
<td>所在地</td>
<td>〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766-67-1760</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年月日</td>
<td>西暦2005年3月31日</td>
</tr>
<tr>
<td>ふりがな</td>
<td>ふりがな</td>
</tr>
<tr>
<td>所在地</td>
<td>所在地</td>
</tr>
<tr>
<td>コード</td>
<td>北緯</td>
</tr>
<tr>
<td>島山遺跡</td>
<td>小矢部市渋谷新田116-1ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>萩原田牧場B遺跡</td>
<td>小矢部市新川 кл新田162-4ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>村田遺跡(1)</td>
<td>村田市村田下谷田1312-2ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>塚生遺跡</td>
<td>小矢部市塚生280-1ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>久喜遺跡</td>
<td>小矢部市高倉174-1</td>
</tr>
<tr>
<td>村田遺跡(2)</td>
<td>小矢部市村田下谷田1401ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>木崎ノ宮・道林寺遺跡</td>
<td>小矢部市道林寺139</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>所有遺跡名</th>
<th>種別</th>
<th>主な時代</th>
<th>主な遺構</th>
<th>主な遺物</th>
<th>特記事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>高木山遺跡</td>
<td>散布地</td>
<td>純文</td>
<td>溝、穴</td>
<td>純文土器、屋敷石宕、石器</td>
<td>引き続き、一部未調査</td>
</tr>
<tr>
<td>福楽山牧場B遺跡</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>檜町遺跡</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>塚生遺跡</td>
<td>畑畑</td>
<td>弥生・古墳</td>
<td>溝、土坑、穴</td>
<td>弥生土器、銅鏡形土製品ほか</td>
<td>土製品、筒状玉製品ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>戸久遺跡</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>村田遺跡</td>
<td>畑畑</td>
<td>奈良か？</td>
<td>穴</td>
<td>土器</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>戸の宮・道林寺遺跡</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>